

この地とこれからも

この連載では、大和ハウス工業と石川県との深い縁を、「過去」「現在」の二つの視点からたどります。第3回は、能登半島地震の震災直後の対応と、長期的な支援についてお伝えします。

第3回

能登半島地震からの復興へ向けて

即時対応と支援の広がり

大和ハウス工業は、阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震などの大規模災害において、被災された方々に一刻も早く生活の場を提供するため、応急仮設住宅の迅速な建設など、さまざまな支援に取り組んできました。

2024年元日に発生した能登半島地震に際しても、グループ全体を挙げて対応しました。発災当日に災害対策初動本部を立ち上げ、支援体制を構築。被災された法人のお客様へは翌日から、個人のお客様へは2週間後から訪問を開始し、約2ヶ月で震度6強以上の地域に建つ655棟を含むすべての物件の点検を完了しました。

また、能登への物資輸送に加え、グループが運営するホテルを避難所として開放するなど、多角的な支援を展開。その後、能登各地で応急仮設住宅を建設するとともに、仮設校舎や仮設商店街の整備を通じて、地域コミュニティの再建にも貢献しました。さらに、大和ハウスグループの社員から募った「ハート募金」を被災地に届けました。

復興公営住宅を整備

震災対応は、長期的な視野に立つて進めています。住宅を失った被災者のため、自治体が整備する賃貸住宅「復興公営住宅」も、その一つです。

大和ハウス工業は、七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町から、それぞれ復興公営住宅の整備事業者として選定されました。被災された方々が安心して長く暮らせる住環境を実現させていきます。

「人々の暮らしをより豊かにしたい」という創業以来の志は、被災地の未来を支える活動の中にも息づいています。

大和ハウスグループの能登半島地震への対応	被災されたオーナー様向けのフリーダイヤルを開設
グループ運営ホテルを避難所として開放	応急仮設住宅 1268戸を建設
ため池・堤防の補修、河川への仮設ダム設置	「ハート募金」により 4,000万円を寄付

志賀町富来地域で整備を進める復興公営住宅の完成予想図。広場や共同菜園を設け、コミュニティの活性化を図ります。



珠洲市船島町第1団地の応急仮設住宅。大和ハウスグループが長年培ってきたプレハブ住宅の迅速な建設ノウハウが活かされました。



輪島市町野町広江地区の災害公営住宅の整備完成予想図。住み心地はもちろん、景観との調和にも配慮しています。



※完成予想図は設計図書を基に描き起こしたもので、実際とは多少異なる場合があります。

